



危機からの復興には、多くの方の不断の努力が必要とされる。今年2021年は、東日本大震災から10年の節目の年に当たる。ようやく復興も緒に就いてきたところでもある。しかし、危機は何度でも形を変えて、我々に襲い掛かってくる。世界金融危機、大規模自然災害、感染症の世界的流行…この数年を振り返るだけでも、我が国は度重なる未曾有の危機にさらされてきた。我々はこの危機をどう乗り越えていけばよいのか。

遡ること100年。当時も現在と同様、重大な危機に見舞われていた。世界中を震撼させたスペイン風邪は、我が国でも1918年から21年にかけて流行し、40万人弱の方々が犠牲となられた。さらに、1923年には関東大震災が発生し、10万人以上の方々が犠牲となられた。その後も昭和金融恐慌、世界大恐慌といった金融経済危機が立て続けに襲い掛かってきた。

この度重なる危機を、我が国はいかに乗り越えてきたのか。

戦前の日本経済を支えていた綿紡績業。1920年代に力織機などに新たな技術が導入され、各地の織物産業が飛躍的に発展した。糸から布を織る織布工程を専業とする企業は、こうした産地で発展する中小の織物メーカーと連携した新しいビジネスモデルの展開によって、原綿から糸を作る紡績工程と織布工程を垂直統合した大企業と互角に渡り合うことが可能になった¹。

また、当時の主な輸送手段は鉄道であった。関東大震災により、被災地の鉄道は壊滅的な被害を受ける。その代わりとして、トラックが復興時の物資の輸送に大活躍した。その機動力を存分に発揮し、高級品と見られていた自動車が実用品として、その公共性・利便性を広く理解される契機となった。当初の輸入車中心から国産車の製造も盛んになっていき、後の経済成長の礎を築いた²。

電力、鉄道、紡績、化学等の産業では、事業の再構築を伴う業界再編が急務となり、重工業化と地域の工業化が進んだのもこの時期であった^{3,4}。新進気鋭のベンチャー起業家が登場し、株式交換やIPOによる再生型のM&Aを行い、多数の名門企業の復活を担っていく。昭和恐慌で萎縮した経済を底上げし、世界的な大恐慌から我が国がいち早く抜け出す要因の一つとなった⁵。

一方、米国でもスペイン風邪をきっかけとして、エンタテインメント産業に新たなイノベーションが起こった。感染症流行下で多くの劇場や映画館が閉鎖に追い込まれる中、自宅で音楽をいつでも手軽に楽しみたいという消費者ニーズが高まり、蓄音機の改良が重ねられ、売上が倍増。人同士の接触が制限される状況下で、レコード文化という新たなライブ体験の再現性・操作性が生み出された⁶。

今回の白書では、全国90者の中小企業・小規模事業者の方々の貴重な実例を始め、危機を乗り越える力と小規模事業者の底力を提起した。自社の存在意義と経営基盤を再確認し、今後の強みとなる技術やサービスを見極めた上で事業を見直し、変化する消費者ニーズに柔軟に対応していく。100年前の経験からも、こうした中小企業・小規模事業者の方々の絶え間ない努力と創意工夫によって、我が国は今回の危機も乗り越えていくことができると確信している。

2021年7月
中小企業庁

1 岡崎哲二 [2017]『経済史から考える』（日本経済新聞出版社）を参考。

2 トヨタ自動車株式会社『トヨタ自動車75年史』を参考。

http://www.toyota.co.jp/jpn/company/history/75years/text/taking_on_the_automotive_business/chapter2/section1/item1.html

3 鎮目雅人 [2002]『戦間期の日本の経済変動と金融政策対応—テイラー・ルールによる評価』（日本銀行金融研究所）を参考。

<https://www.imes.boj.or.jp/research/papers/japanese/kk21-2-3.pdf>

4 袁堂軍、攝津育彦、ジャン・パスカル・バッシェノ、深尾京司 [2009]『戦前期日本の県内総生産と産業構造』（経済研究第60巻2号）を参考。

<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/19561/keizaikenkyu06002163.pdf>

5 株式会社FUNDBOOK [2020]『日本はM&A先進国だった!? 戦前の歴史から紐解く日本のM&A』を参考。

<https://fundbook.co.jp/history-of-ma-japan/>

6 大和田俊之 [2021]『パンデミックとアメリカ音楽』（ちくまweb）を参考。

<http://www.webchikuma.jp/articles/-/2298?page=3>